

令和 6 年度圏域別取組状況について

1	秩父郡市医師会	……	1 頁
2	秩父郡市歯科医師会	……	3 頁
3	秩父郡市薬剤師会	……	4 頁
4	保険者協議会	……	5 頁
5	看護協会	……	6 頁
6	秩父市	……	7 頁
7	横瀬町	……	8 頁
8	皆野町	……	9 頁
9	長瀨町	……	10 頁
10	小鹿野町	……	11 頁
11	秩父消防本部	……	12 頁
12	埼玉県秩父保健所	……	13 頁

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体名 秩父郡市医師会

令和6年度 圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだ事業

- ① 秩父地域救急医療対策（休日診療所、在宅当番医制、二次救急体制、小児初期救急体制）、県特殊救急医療体制（SSN・SAN）に努めた。
休日診療所は、日曜・祝日9時から17時、執務医師2名体制で対応。
- ② 発熱者、感染相談者に対して、2次救急病院、休日診療所、在宅当番医の充実を図った。
- ③ 救急電話相談（#7119）などの普及・啓発により救急医療機関の負担軽減、救急車の適正利用を推進。
- ④ 地域健・検診業務（特定健診、職域健診、がん検診、学童二次検診、胸部X線読影、その他の健診業務）に努めた。また積極的に特定保健指導を行った。
- ⑤ 1歳6ヶ月児検診、3歳児検診、また屈折検査器機を用いた3歳児視力検査を行った。
- ⑥ 糖尿病性腎症重症化予防として、特定健診受診者に対する糖尿病早期発見、腎症の早期診断、早期治療に取り組んだ。
- ⑦ 予防接種業務として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対し感染症予防に努めた。
- ⑧ 予防接種健康被害調査委員会への参画。
- ⑨ コロナウイルス後遺症外来の圏域内設置。
- ⑩ 生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがある感染症の発生及びまん延に備え感染症発生・まん延時に医療を提供する医療措置協定に参画。
- ⑪ 大規模災害時の医療提供対策に備え、自治体との連携強化を図るための研修会、訓練等へ参画。
- ⑫ ちちぶ医療協議会（ちちぶ圏域医師・医療関係者教育プログラム作成。並びにそれに伴う会員医療機関への専攻医受け入れ体制確保。救急医療に関する事業。予防医療に関する事業。リハビリテーションに関する事業。）へ参画。
- ⑬ 1市4町の実務者と医師会役員が一堂に会し、地域保健事業の円滑な推進と将来計画を総合的に検討するべく「ちちぶ保健・医療・福祉総合対策会議」を設置。
- ⑭ 2025年度問題に備え、医療と介護の連携を図るための在宅医療提供体制に向けて、1市

4町、各訪問看護ステーションと共同で事業を推進。

- ⑮ ちちぶ版在宅緩和医療体制を構築し、高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らせる地域を目指し、行政と多職種連携の上で取り組んだ。
 - ・ACP人生会議普及啓発事業に派遣する講師の人材バンクへ協力。
- ⑯ 介護認定二次審査会、障がい者自立支援審査会に多職種と連携しながら事業に取り組んだ。
- ⑰ 地域医療の将来を見据え、首長、行政、議員との勉強会を開き、少子高齢化、医療資源不足の提言を行った。
- ⑱ 秩父市立病院建設策定委員会に合わせて本会執行部で意見交換し、会長が委員会に臨んだ。
- ⑲ 秩父郡市医師会立秩父看護専門学校を運営し、将来、秩父地域の看護業務を担う人材を発掘、育成すると共に、地域内で働く看護師の後押しをした。
- ⑳ 厚労省委託事業として、秩父地域産業保健センターを運営し、小規模事業所等からの相談業務、労働者へ保健指導等の事業を推進。
- ㉑ 学校医が中心となり児童生徒の健康の保持・増進に努めると共に、教職員、父兄を対象にした講演会の実施や運動器検診に努めた。
- ㉒ 性教育、薬物乱用防止等の講座を開催。
- ㉓ 発達障がい児への対策について、行政、学校と本会が一体となり取り組んだ。
- ㉔ 「秩父地域自殺予防対策連絡会」等と連携し、自殺防止対策に取り組んだ。
- ㉕ 患者およびその家族から医療・介護従事者への暴力、ハラスメント対策事業を展開。
- ㉖ 地域住民へのさまざまな健康啓蒙活動を、健康講演の他、ホームページ、YouTube、FM ラジオを利用して行った。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 秩父郡市歯科医師会

記入者名・連絡先 高田直樹 みつはし歯科 (75-0050)

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

- 1、地域在宅歯科医療推進体制整備事業
 - ・「秩父郡市在宅歯科医療推進窓口」の設置
歯科衛生士を常駐し、訪問診療派遣や相談業務を行っている
- 2、休日在宅歯科診療の実施
 - ・年末年始やGW等の連休を中心に会員の輪番制で実施している
- 3、口腔機能向上事業
 - ・口腔機能の維持・向上が糖尿病などの疾病、認知症、フレイルの予防につながることを周知するため一般向けパンフレット等の配布、講演会等の実施
 - ・保健センターまつりにて講演 「口腔内フローラと健康」
 - ・災害時の口腔に対する周知、「お口の防災グッズ」の作成と配布
 - ・秩父FMに出演し、地域住民に歯科知識向上のための講話を実施
- 4、歯科健診事業
 - ・障害者施設における健診および職員向け口腔ケア研修会の実施
 - ・地元中小企業の歯科健診の実施
 - ・各地域で行われる健康まつり会場での歯科健診を実施
 - ・健診・相談・研修会により歯科口腔保健の重要性の啓発を行っている
- 5、行政ならびに多職種との連携の推進
 - ・秩父市 大滝国民健康保険診療所への歯科医師の派遣
 - ・ちちぶ医療協議会（救急医療分科会、予防リハビリテーション分科会）への委員派遣
 - ・市・町地域ケア会議ならびに秩父市地域ケア会議への委員派遣・協力
 - ・地域包括ケア構築のための連携を積極的に進めている
 - ・秩父保健所管内歯科口腔保健連携会議にて、秩父郡市内での歯科口腔保健推進に向けた話し合いを実施

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 秩父郡市薬剤師会

記入者名・連絡先 小林 悟

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

1 救急医療

- ・二次救急輪番当番病院に対応した休日及び準夜帯の薬局開局
- ・医師会による休日診療所に対応した 休日の薬局開局
- ・小鹿野中央病院の初期救急に対応したおがの薬局開局
- ・#7119の薬袋等への印刷による啓発

2 親と子の保健医療対策

- ・小中高等学校等における薬物乱用防止教室開催

3 在宅医療の推進

- ・薬剤師居宅療養管理指導の実施（訪問薬剤管理指導）
- ・医療材料、衛生材料の選定と備蓄倉庫設置、運用
- ・他職種との連携会実施（在宅地域ケア勉強会）

4 生活習慣病対策

- ・生活習慣病重症化予防対策事業への参画
- ・ポリファーマシー対策事業への参画
- ・管理栄養士の訪問栄養食事指導の実施（腎機能低下、糖尿病悪化、低栄養、褥瘡などの防止の成果）
- ・チャオの会開催（地域住民向けの薬、栄養、健康について講演と相談会 年2回）
- ・薬剤師と管理栄養士の連携強化
- ・私の療養手帳とおくすり手帳の啓発と使用推進
- ・地域ケア会議への参画
- ・ちちぶ医療協議会（救急医療、予防リハビリ医療に関する事業）への参画
- ・キッチンカーで山間部や限界集落へ出向いてのサロン活動、地域包括と連携しての活動、いきいきサロンでの講話

5 精神疾患医療と自殺予防対策の推進

- ・小中高等学校等における薬物乱用防止教室開催
- ・危険ドラッグ対策
- ・自殺防止対策のため店頭啓発
- ・オレンジカフェの開催

6 健康危機管理体制の整備充実

- ・感染症法に基づく埼玉県との医療措置協定の締結
- ・医療用医薬品の安定供給のための備蓄

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 皆野町町民生活課
記入者名・連絡先 梅津 順子 62-1232

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

【生活習慣病対策の推進】

1. 特定健診受診率向上事業

- 人工知能とソーシャルマーケティング手法を活用した受診勧奨。同一の受診勧奨通知ではなく、対象者ごとに個々の特性に応じた受診勧奨を年2回実施。
- 通院中の未受診者対策として、ナッジ理論を取り入れた医師勧奨チラシを作成し、かかりつけ医から受診勧奨。（対象者が強く信頼を置いている「かかりつけ医」に協力を依頼。）
- 通院中で特定健診検査項目と同様の検査を実施している方を対象に「診療情報提供事業（みなし健診）」を実施。レセプトデータを活用し、診療行為コードから血液検査の実施状況に応じて対象者を絞り込み、情報提供を依頼。
- 健診早期受診キャンペーンとして、11月までに健診を受診された方の中から抽選でクオカード（2,000円から1万円）をプレゼント。
- ちちぶFMを活用し、健診受診勧奨CMを週2回放送（R6.6月～11月）。
- 外国人向けの受診率向上対策として、外国人の行動変容につながるよう、外国語による通知やウェブサイトを作成し、多方面から情報提供を実施。
- 集団検診の試行的実施（3会場）

2. データヘルスを活用した健康づくりの推進

健康寿命の延伸を目的に、医療保険者が持つ健診やレセプトデータを分析し、被保険者の健康課題に合わせた保健事業を開始した。具体的には、平成28年から令和5年（8年分）の医科レセプトデータ26万レコードと特定健診対象者3万レコードを分析した。

長期入院（入院期間22日以上：入院期間の第三四分位点）の契機となった傷病の第1位は「大腿骨頸部骨折」、第2位「うっ血性心不全」、第3位「誤嚥性肺炎」であった。また、複数回入院している方の入院の契機となった傷病の第1位は「うっ血性心不全」、第2位「誤嚥性肺炎」であった。これらのことから、当町では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業として「転倒骨折予防」をまたうっ血性心不全対策として「減塩の普及」に取り組んでいる。

※数項目を選定し、1頁に収まるように簡潔に御記入ください。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 秩父市役所（秩父市立病院）

記入者名・連絡先 新井 寛子・0494-23-0611

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

【看護・介護人材の確保推進】

* 埼玉県看護協会

- ・ 看護師、准看護師、保健師、助産師で就業していない人の届出制度
- ・ 進路相談

将来看護師の道に進みたい学生や社会人を対象として実施

- ・ ふれあい看護体験

高校生対象に病院見学や看護実習、胸骨圧迫やAED体験を実施

- ・ 再就業技術講習会

潜在看護師に対して、最近の看護の知識や技術を体験し再就業のステップアップとなるように講演会を実施

* 埼玉県教育局推進「夢と豊かな心をはぐくむ講演会授業」から、埼玉県看護協会「看護の出前授業」として実施

- ・ 市内小学校の1校にて、6年生28名が参加
- ・ 「いのちの大切さ」「看護師の仕事」等に対して講演会を実施

（看護師の仕事紹介、看護師絵の道の説明のほか、聴診器やパルスオキシメーターを使用し「いのち」を実感してもらう）

* 秩父地域看護師会

- ・ 定期的に会議を開催し、情報交換を実施

その他、スムーズな転院調整ができるよう情報共有を行った

- ・ 秩父看護専門学校とは、病院実習の受け入れていく相談や調整を行った
- ・ 看護職・介護士を対象とした研修会を実施

* その他

市内の中学生を対象に半日看護体験を実施し、病院見学や看護実習を体験した

※数項目を選定し、1頁に収まるように簡潔に御記入ください。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 秩父市

記入者名・連絡先 地域医療対策課 柿原 22-2279

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

1 救急医療（小児救急を含む）**③救急医療等に従事する医師確保対策の推進**

- ・ちちぶ医療協議会の取組として、公立の二次救急輪番病院に対して財政支援、また、休日及び準夜帯の調剤薬局開設のため秩父郡市薬剤師会に対して財政支援を行い、病院勤務医・スタッフの負担軽減、医療スタッフの増員、患者の利便性の向上などを図った。
- ・大学医局へ非常勤医師の派遣要請等を行い、救急医療に従事する医師の確保を図った。

④看護人材の確保対策の推進

- ・令和4年度実施の看護師確保策検討プロジェクトの成果を実行し、看護師確保に努めた。

⑤小児救急対策の推進

- ・大学医局へ医師派遣を要請し、小児科常勤医師の確保を行った。

⑥救急医療機関の適正受診や救急車の適正利用の推進

広報誌の内容をより市民の目に留まるように変更し、救急医療機関の適正受診や#7119の啓発について、認知向上を図った。

2 親と子の保健医療対策**①地域の医師会、公立病院、行政の協力による産科医療機関の支援**

- ・秩父保健医療圏医師等派遣支援事業補助金を活用するとともに、ちちぶ定住自立圏の財政支援と合わせて、市内の産科診療所に埼玉医科大学関連病院から週3回の産科医派遣と秩父市立病院から助産師1名の派遣を行った。

③妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援の充実・強化

- ・こども家庭センターとして伴走型相談支援の充実を図るために、妊娠8か月時のアンケートを継続実施し、希望される妊婦及び支援が必要とされる妊婦には面談や訪問を行った。
- ・産後ケア事業を、産後の体調や育児に不安がある方で利用希望される方全てにサービスを提供し、心身の安定と育児不安の解消を図ることができた。

3 在宅医療の推進**③看護・介護人材の確保対策の推進**

- ・介護人材の中で、特に深刻となっている訪問介護員の高齢化による人材不足解消に向け、訪問型生活支援サービス（緩和型）従事者研修を開催し、担い手の養成を図った。

4 生活習慣病対策の推進**①生活習慣病の予防と重症化防止対策の推進**

- ・がん検診の受診率向上のため、勧奨通知の送付、国保特定健診や協会けんぽ組合の特定健診と同日実施などを実施している。また、医師会、1市4町や市立病院と連携した「糖尿病性腎症重症化予防事業」に継続して取り組み、事業の評価を行っている。
- ・令和6年7月より健康管理アプリ「ちちぶ健康アプリ」を配信開始し、健康活動の習慣化による生活習慣病の予防、健康寿命の延伸、医療・介護費の抑制を図っている。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 横 瀬 町
 記入者名・連絡先 健康子育て課 0494-25-0110

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

◎救急医療（小児救急を含む）

（1）救急医療機関の適正受診や救急車の適正利用の推進

- ・従来実施していた広報への掲載に加え、夏季や年末年始等、救急の需要が高まる時期に合わせ、埼玉県救急電話相談の周知を実施。救急医療機関の適正受診について普及啓発を図った。

◎生活習慣病対策の推進のための取組

（1）歯科口腔保健対策の推進

- ・個別歯周病検診を受診した40歳以上の町民を対象に検診料の一部助成を実施。
- ・歯周病検診を「横瀬町わくわくポイント事業（インセンティブ事業）」の新規対象事業とし、より多くの対象者へ受診を呼びかけた。
 - R5年度受診者数：4人
 - R6年度受診者数：6人

（2）生活習慣病予防講座の推進

- ・従来実施していた「生活習慣病予防講座(栄養)」と「生活習慣病予防講座(運動)」を骨密度測定と同時実施へ変更したことにより多くの町民に向け、生活習慣病予防の方法と重要性の啓発を行った。
 - R5参加者実績：栄養 10人 運動 14人
 - R6参加者実績：栄養 249人 運動 267人

◎親と子の保健医療対策のための取組

（1）児童虐待予防対策の推進

- ・母子保健機能と児童福祉機能が連携・協働をし、妊娠期からの児童虐待を防止するため、課内に“横瀬町こども家庭センター”を設置。(R6, 10, 1)
 - 合同ケース会議実施回数 4回（1月末時点）

（2）妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援の充実・強化

- ・遠方の分娩取扱施設での出産が必要な妊婦に向け、交通費及び宿泊費の助成（一部）を開始。より安心して妊娠、出産、子育てができるよう、支援の充実を図った。
 - 申請実績 1件 1,094円
- ・利用者の増加と予約枠の不足解消のため、運動とことばのはぐくみ相談を年7回から年12回に、作業療法については、年2回（1日）、年4回（午後半日）とし、相談枠を増加している。また、ことばのはぐくみ相談については、新たにオンライン相談支援体制を構築した。

◎若者の自殺対策の取組

（1）SOSの出し方教育「自分を大切にする講座」の実施

- ・中学生を対象に、自分自身も相手も大切にし、悩みを抱えたときに誰かに助けを求められるようになることを目的に実施。中学生が利用できる相談先も併せて紹介した。各学年1回ずつ、計3回実施。

※数項目を選定し、1頁に収まるように簡潔に御記入ください。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 皆野町

記入者名・連絡先 設楽久美子 62-1288

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

【親と子の保健医療対策】

1. 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実・強化

①母子健康手帳交付事業

母子健康手帳交付時に全妊婦対象にアンケートを実施し、その結果に基づき保健師・助産師が個別に相談対応する。また、妊娠届出者全員についてカンファレンスを行い、ハイリスク妊婦には保健師・助産師が相談支援を実施。

2. 思春期の健康保持の推進

①小学校への出前講座

国神小学校1・2年生に対して、生命の安全教育として、男女の違い、プライベートゾーン、自分の体は自分で守ることの大切さ等について助産師が講義を実施。子ども達が自己肯定感が持てるよう小学校と連携しながら実施。

【生活習慣病対策の推進】

1. 生活習慣病の予防と重症化防止対策の推進

①医療講演会の開催

自分や家族の健康に関心を向ける機会となるよう皆野病院と共催で講演会を開催。院長による講演と健康チェックブースを設置。参加者数70名。

②健診結果説明会

コロナ禍により令和2年度から中止していた健診結果説明会を再開。参加者のうち11月末までに受診された方にはインセンティブとしてゴミ袋とQUOカード贈呈の抽選券を配付し、1月にQUOカード当選者に対する贈呈式を開催。

③減塩・高たんぱく食環境整備事業

町内の協力店に依頼し、減塩食品や高たんぱく食品の陳列棚等にPOPを掲示し、当該食品が目につきやすい食環境整備を行う。令和4年度から実施。

【精神医療と自殺防止対策の推進】

1. 自殺防止対策の推進

①児童生徒のSOSの出し方に関する教育

「SOSの出し方に関する教育」について、町内の小学校に通う5・6年生、中学校全生徒及び教職員に対してリーフレットを配布し普及啓発。

②住民健診問診項目によるスクリーニング

住民健診の問診項目にメンタルに関する質問項目を設け、気になる回答をした方には保健師等が個別相談や家庭訪問を実施。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名

長瀬町

記入者名・連絡先 健康こども課 福島 ☎ 6 6 - 3 1 1 1

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

■親と子の保健医療対策

○妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援の充実・強化

子育て世代包括支援センター、子育て支援拠点である「多世代ふれ愛ベース長瀬」で、母子保健事業、子育て支援事業、子育て相談事業等を一体的に実施した。新規事業として、町の「子育て応援フェスタ」を開催し、「子育てに優しい町・長瀬」をアピールし、子育てに孤独を感じないよう、子育て世代はもちろん、地域の人同士の交流を目的として実施した。

○児童虐待予防対策、思春期の健康保持の推進

児童虐待防止対策として、「地域のこども達を地域で育てる」を実現するために、今年度のテーマ「笑顔広がる心つなぐ講座」として、子育て中の養育者、子育てを見守っている地域の人達、また地域で子ども達を支援している支援者などに視点を当て、事業を展開した。昨年度から力を入れている事業として、年長児、小学生1～6年生に対し、学年に対応した性教育「こどものための講座」を、学校の養護教諭、地域の助産師、健康こども課で協力して実施した。

■生活習慣病対策の推進

○生活習慣病の予防と重症化防止対策の推進

特定健診やがん検診の受診率の向上を目指し、実施方法の検討したところ、大腸がん検診については受診者数の増加につながった。重症化予防としては、高血圧かつ高血糖の方を対象に、栄養指導や地域の理学療法士による運動指導も取り入れた包括的な取り組みを昨年に引き続き実施した。

○データヘルズ計画を活用した健康づくりの推進

第3期の計画で分析した健康課題に取り組むため、高血圧対策、糖尿病対策の実施と、健康増進から介護予防までを一体的に実施している。「元気モリモリ体操」をはじめとした介護予防事業を継続して実施していくほか、「ながとろ花めぐり講座」や「サーキットチェアトレーニング講座」などを公民館事業と共催して実施し、前期高齢者に向けての事業を実施し、男性の参加者を増やすことにもつながった。

○リハビリテーション専門職との連携

介護予防事業や生活習慣病予防事業についても、リハの専門職と連携し、地域に向いた運動指導や、個別の運動指導を行った。リハ専門職は、地域リハビリテーション・ケアサポートセンターからの派遣を活用している。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 小鹿野町

記入者名・連絡先 保健課 犬木康博 75-0135

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

【親と子の保健医療対策】

1. 妊娠期から子育て期まで切れ目ない子育て支援総合相談体制の強化(こども課)
家族支援として、ファミリー面接(本人・夫・こども等)を実施し、夫や本人をとりまく関係者支援をすることで、妊娠期から家族支援の充実を図っている。
妊娠期から子育て期にわたり切れ目ない相談支援をする中で、リスクアセスメントシート等を活用し、養育に困難が予測される家庭に対し早期に支援を開始して、児童虐待を予防しています。また、中学校3年生を対象にプレコンセプションケアに関する授業を行い、中学校と連携して思春期の健康づくりを進めている。

【在宅医療の推進】

1. 地域包括ケアシステムの連携と充実
保健・医療・福祉が「個々を支える」「皆で考える」「つなげる」隙間を埋めていく支援を目指し、「地域ケア会議」「包括ケア会議」「自立支援型地域ケア会議」等により人生の最期まで住み慣れた場所で自分らしい生活が出来るよう、協働して在宅医療を推進している。「私の療養手帳」の発行数は令和6年度は34冊（令和7年1月末現在）であり、在宅療養の推進に活用されている。

【生活習慣病対策の推進】

1. いきいきおがの健康ポイント2024の実施
20歳以上の町民を対象に、特定健診やがん検診受検での【必須ポイント】と保健課主催の教室や講演会参加や運動チェックカレンダー利用での【参加ポイント】の合計ポイントに応じてインセンティブとして賞品を贈呈。
2. 糖尿病重症化予防連携事業の実施（町立病院連携）
糖尿病重症化予防のために町立病院と連携会議を実施、メンバーは医師・看護師・検査技師・管理栄養士・事務職、保健課保健師・管理栄養士で構成されている。会議では、関わりのある糖尿病患者の抽出並びにケース検討、2泊3日の教育入院プログラムは入院候補者について検討している。

【精神医療と自殺防止対策の推進】

1. こころの相談事業と人材育成の実施

【健康危機管理体制の整備充実】

1. 高齢者見守りネットワークの推進
2. ポストコロナにおける共同避難所開設訓練の実施

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名 秩父消防本部

記入者名・連絡先 中山洋次 21-0122

令和6年度中に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等（自由記載）

- 1 救急自動車、救急自動車積載資機材の整備を図ると共に、各種認定救急救命士や新規救急救命士の養成及び救急救命士の再教育を行うことにより、救急救命処置の高度化を進めている。
※令和6年度に実施した救急救命士養成の実習及び講習等は下記のとおり。
 - ① 気管挿管病院実習（熊谷総合病院）2名
 - ② ビデオ喉頭鏡病院実習（熊谷総合病院）2名
 - ③ 気管挿管再教育病院実習（深谷赤十字病院）4名
 - ④ 救急救命士養成研修（救急救命東京研修所養成課程）2名
 - ⑤ 薬剤投与病院実習（深谷赤十字病院）2名
 - ⑥ 指導救命士養成研修（埼玉県消防学校救急救命士養成課程）1名
 - ⑦ 管内救急告示病院、深谷赤十字病院で病院実習による再教育を行う。
 - ⑧ 埼玉県立循環器呼吸器病センター脳神経センター長による救急講演会を行う。
- 2 二次救急病院の負担軽減に向け、処置困難と思われる傷病者に対しドクターヘリ、ドクターカー要請や管外の三次医療機関及び専門的治療が可能な病院へ直接搬送を行っている。
- 3 一般市民、小学生、中学生、高校生及び各種団体への救急講習、応急手当普及員講習を積極的に行い、応急手当の普及啓発による救命率の向上を目指している。
- 4 秩父郡市医師会と連携し初期救急医療の調整及び二次救急輪番制病院（秩父病院・秩父市立病院・皆野病院）と連携し二次救急医療の調整、当番日の割り振りを行う。
- 5 救急車の適正利用広報のため、秩父消防本部ホームページ、秩父広域市町村圏組合公式ツイッターへの投稿、ちちぶFMラジオ出演、救急講習時に広報及びポスター配布を行う。

※数項目を選定し、1頁に収まるように簡潔に御記入ください。

秩父保健医療圏の圏域別取組について

団体・機関・市町名

秩父保健所

令和6年度に圏域別取組の推進に関連し重点的に取り組んだこと、成果等

【救急医療(小児救急を含む)】

■救急医療機関の適正受診や救急車の適正利用の推進

・広報物を配布等することにより、救急電話相談(#7119)の周知・啓発に取り組んだ。

【親と子の保健医療対策】

■妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援の充実・強化

・妊娠期からの支援が適切に行われるよう、市町等を対象とした会議及び研修会を開催した。

■思春期の健康保持の増進

・学校における薬物乱用防止教室の開催を支援するとともに、講師となる薬物乱用防止指導員等に対して、薬物依存に関する研修会を開催し、知識の向上を図った。

【在宅医療の推進】

■広域的な在宅医療体制の推進

・「ちちぶ版地域包括ケアシステム」推進のための取組に参加し、関係団体等との連携及び協働に努めた。

【生活習慣病対策の推進】

■生活習慣病の予防と重症化防止対策の推進

・秩父保健所管内地域・職域連携推進会議を開催し、地域保健と職域保健の連携を図り、生涯を通じた健康づくりの推進に取り組んだ。

【精神医療と自殺防止対策の推進】

■精神疾患(認知症を含む)の支援体制の構築

・精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進のため会議や研修会を実施し、支援機関等への知識向上を図ると共に、連携体制の構築に努めた。

■自殺防止対策の推進

・「語らいのつどい」を6回開催し、自死遺族等への支援に努めた。

■依存症対策と薬物乱用防止対策の推進

・管内アルコール依存症自助グループ(AA)や断酒会との連携に努めた。AAが主催するセミナーにゲストスピーカーとして参加し、保健所の取組について周知を行った。
・薬物乱用防止街頭キャンペーンを実施した。関係団体、管内学校に啓発資材を配布した。

【健康危機管理体制の整備充実】

■ポストコロナにおける新興感染症発生・まん延時に備えた健康危機管理体制の強化

・令和6年度の管内感染症業務緊急連絡網を作成し、関係機関に配布した。
・管内高齢者施設等を対象に感染対策研修会を開催した。
・今後の新興感染症発生時に備えるため管内市町・病院・保健所による会議を開催し、埼玉県における感染症対策に関する最新の情報を得ると共に関係機関同士のネットワーク構築に努めた。
・秩父保健所健康危機対処計画(感染症編)を改定した。秩父市立病院の協力を得て同計画に基づく患者搬送訓練を実施した。

■医療機器依存度の高い避難行動要支援者等の災害時対策の推進

・医療機器依存度の高い難病患者等に対して、災害時における個別支援計画を作成し、随時更新を行うとともに、要支援者に係る台帳及び地図を整備した。
・難病対策地域協議会や支援従事者研修会を開催し、災害時等の危機管理体制の整備に努めた。また、関係者に対し、同行訪問や支援会議の中で、災害時における支援の必要性を伝えた。